

令和5年度 第2回川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会 報告書
～ 安心して暮らし続けるために必要な資源とは ～

日時：令和6年2月16日（金）18:00～19:45
場所：川崎市役所本庁舎2階ホール（オンライン併用開催）

地域包括ケアシステム構築に関する行政の取組報告、市内の活動紹介の後、8グループ（会場5、オンライン3）に分かれてグループディスカッションを行いました。各自の意見等をグループ内で共有・整理し、最後に全体に向けて発表し内容を共有しました。

伊藤副市長挨拶

本日は大変お忙しい中、そして開始時間が18時と比較的遅めの開会になりましたが、お集まりいただきありがとうございます。今年度2回目、通算では20回目を迎えました。また、新本庁舎ができて初めての開催になります。まだ御覧になっていない方がいらっしゃいましたら、21時まで25階展望ロビーを見ることが出来ますので、閉会后に観賞いただけたらと思います。本日も長時間になりますが、皆様の積極的な御発言を期待いたします。よろしくどうぞお願いいたします。



田中座長挨拶

地域包括ケアに関する1回限りの勉強会は各自治体で行われていますが、川崎市の場合20回目。しかも市長、副市長が必ず出席している。川崎市が一番進んでいる市の一つであることは厚労省もよく知っており、また老人保健事業でも川崎市は必ず事例として挙げられます。テーマを巡って議論するだけでなく、日本をリードすることをしているという誇りをもって進めてください。よろしくお願いたします。



川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組（地域包括ケア推進室）

(1) 地ケアの取組の方向性（ロードマップ）

・現在、令和7年度までを期限とする第2段階にあり、地域の各主体がそれぞれの役割に応じて具体的に行動できるようになることを目指す時期にある。

(2) 地域包括ケアシステム第2段階における課題

- ①セルフケア→住民の意識低下
- ②町内会自治会、民生委員等による見守りの関係性→地域団体の加入者数の低下
- ③地域の活動の場→既存の地域活動団体の疲弊
- ④医療・福祉・生活支援サービス→専門職を含む人材不足の加速化
- ⑤公的介入→ケース数の増加による対応の持続可能性

地域包括ケアシステムに関する市内の活動紹介

～生活協同組合パルシステム神奈川 三井 俊成 氏～

(1) 地域と連携をした居場所づくり

・パルシステムでは2030年ビジョンで「だれもが認めあい、ともにいきる地域づくりの実現」に向けて総合福祉の取組を進めている。
・配送センターのこれまでの事業と活動に総合福祉の考えを取り入れ、組合員の声も踏まえ「つどう、つながる、支え合う」が実現できる場所として配送拠点ベースとした地域の方々が集う居場所づくりを

(3) 地域包括ケアシステム第3段階に向けたポイント

- ・第3段階に向け、民間企業等も含めた、地域の多様な主体による誰一人取り残さない包括的な支援体制づくりを進めていく。
- ・予防的な視点を重視
- ・資源の充実に向けた他分野連携、民間連携の強化
- ・早期に支援につながる地域をめざした地域や専門機関のネットワークの強化

(4) 地ケアフェアについて

- ・具体的な取組の一つとして連絡協議会主催で「人生100年時代に備える地ケアフェア」を開催
- ・人生100年時代を安心して迎えるための情報が分かるイベントを目指す。

進めている。

・どのように実現するかを考えていたとき、麻生区の高齢者見守りネットワーク協議会に出席した際に認知症サポーター養成講座を開催できないかと声を掛けられた。その後、配送拠点で養成講座を複数回実施。これをきっかけに様々な人とのつながりができ、居場所づくりの実現につながった。

(2) 「みんなでゆっくりCAFE」の開催

- ・認知症カフェというと参加するハードルが上がるため、カフェの名称は「みんなでゆっくりCAFE」とした。
- ・月1回テーマを決めて開催。これまで、座ってできる体操や管理栄養士による簡単料理講座、警察の方による特殊詐欺防犯講座等を実施。講座のテーマは、会が終わるごとに参加者にやってみたいこと、興味のあることを聞き、希望の多いものを選択している。
- ・生後2か月の赤ちゃん連れのお母さんが参加した際には、人生の先輩である高齢者の方に子育て方法や日頃の悩みを相談していた。今後は、多世代交流ができる場にしていきたい。

(3) その他の居場所

- ・カフェ関係者からの依頼で、「こそだて交流会」を開催。ミニコンサートや水遊びを楽しんでいただいた。

田中座長総評

昔は、まちづくりというとハード面での話が多かったが、居場所づくりや関係性づくりが中心になると良い。高齢者は数も多く、また介護保険という大きな財政の仕組みがあるため相談できる場も多くあります。しかし目的はそれだけではありません。子どもたちをどのように巻き込むか、支援するかの方が日本にとっては重大です。地域で暮らしている人、一日中地域にいるのは誰かと考えると子どもと高齢者で、両者はセットにできます。ここを使わない手はありません。子どもとご飯を一緒に食べる場所を作ろうというのは非常に役に立ちます。子どもと高齢者が一緒にご飯を作る、ゲームをする。あるいは親が帰ってくるまで見守り、ついにご飯を食べる。そういう工夫はいくらでも可能です。高齢者のために何かするのではなく、高齢者が地域の子どものために何か行う、そうすると高齢者は来てくれます。閉じこもると早く衰えたり骨折したりしますが、目的のある場所があることで閉じこもりにならない。そのためには、今日お話があちこちから出ましたが、みんなが集まると楽しいという場を作る。その企画も元気な高齢者に合わせると思います。市役所はさりげなく見ているだけでいい。社会経験が十分にある人たちが年を取っているわけですから、その人たちに企画をしてもらい、それを手伝う。皆さんの発表からそういうものの兆しを感じ、また、たくさん学びがありました。大変良い会だったと感じました。ありがとうございました。

市長挨拶

皆さん、本当に今日はありがとうございました。特に良かったのは、ないものねだりではなくあるもの探しをしていただき、この資源をどうやってうまく生かすかということにフォーカスされていたことです。

一例として、高津区の蟹ヶ谷と子母口エリアで実施しているコミュニティ交通があります。民間の高齢者施設とボウリング場が連携して、ボウリング場のマイクロバスで元気な施設利用者をボウリング場に運ぼうという話がきっかけでしたが、どうせならばと地域住民も利用できるようにして、地域のレストランも結びました。あるもの探しをして地域の資源を組み合わせることで、ボウリングをやろう、レストランで美味しいものを食べようという、ただの移動ではない、新たな価値をみんなで作り上げることができました。プラスアルファ&プラスアルファのような、あるものをくっつけていくとそういった価値が出てくるのではと思います。グループディスカッションの題材にありました菅町会は、日本一人口の多い町会で学校が6つあり、この公共施設を使うだけでも相当なスペースを生むことができます。その地域のあるものを探せば、様々なことが可能になると思います。そして、これからは、こういったことを具体的に地域に落とし込んでいくレベルに来ていると思っています。

今、参画団体が121団体になったと聞いていますが、皆さんが持つものを掛け合わせると凄まじいものが生まれるのではないかと、希望とワクワク感しかないということをお聞きにさせていただきたいと思っています。長時間、遅くまで御協力いただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



認知症カフェと合同で開催できれば多世代交流につながると考えている。

- ・毎月「ゆっくり健康マージャン」を開催。人気が高く、女性参加者も多い。半数以上が初心者だが、楽しんでいただけている。毎回地域包括支援センターの方にも参加いただき、介護相談等も実施している。

(4) 居場所づくりの場での健康チェック

・居場所づくりの場で健康チェックを同時に実施。結果について保健師の方が詳しく説明してくれるため、参加者からは好評である。

(5) 認知症サポーター養成講座

・1月下旬に認知症サポーター養成講座を開催し、配送担当者及び営業担当者全員が受講した。配送時に組合員の変化に気づき、地域包括支援センター及び生活支援コーディネーターと連携を図ることで、住み慣れたまちで長く暮らせる環境を作っていく。

ディスカッションで話し合いました！～誰もが安心して暮らし続けられるまちをデザインしてみよう～

市内で活動する保健・医療・福祉関係団体、市民公益活動団体、青少年支援団体、民間企業（鉄道、電気・ガス、配達飲食サービス、新聞小売業、金融、スポーツ施設提供業等）、大学等研究機関等、多種多様な団体からの参加者が8つのグループ（会場5グループ、オンライン3グループ）に分かれ、グループディスカッションを行いました。自分が住むまちにどのような資源（場所、活動、サービス等）があれば安心して暮らし続けられるか。川崎市のある「まち」について、住民等が考える課題や地図から読み取れる情報、人口・世帯数などのデータを基に、グループで自由にデザインするという内容で、意見をグループ内で共有・整理した上で全体に向けて発表を行いました。

Aグループ（オンライン）

【外出促進】 コミュニティバス／往復のバス／移動販売車（移動スーパー）

【社会貢献】 高齢者の人材バンク／有償ボランティア

【人的交流・集いの場】 地域間の交流を増やす（合同の防災訓練・ご近所ネットワーク）／特産物を（梨）を使って小学生と高齢者の交流／高齢者、障害者などとの交流

【生きがい】 ペットを飼う（認知症予防、孤独死を防ぐ）／課題：ペットの死

Bグループ（オンライン）

【誰でも集いやすい場所づくり】 学生が活躍する場所（バイトとは違う形）／高齢者と子どもが集える場所／子どもが集える場所／親子向けワークショップやイベントの実施

【場所や情報につなげる】 24時間相談のできる場所（街のコンシェルジュ）／高齢者向けの多機能な施設（相談できる・情報を得られる）

【安心して暮らす】 交通ルールの周知（自転車）／インフラの整備

【多世代がいまきと暮らす】 高齢者雇用

Cグループ（オンライン）

【場所づくり】 介護サービスの相談窓口／健康チェック／平日昼間に立ち寄れる場所／多世代での交流／生活圏内での出会いづくり／SOSを出せるようなつながりづくり

【高齢者】 乗合バスの普及／買い物代行サービス・スーパーの拡充・宅配ボックスの活用／アクティブシニアによる地域の見守り・安否確認／安否確認を兼ねた弁当の宅配／独居で支援が必要な方を事前に把握

【まちのアピール】 まち探検（まちの魅力を再発見）→リーフレット作成（新しく住民になる人に配布）

Dグループ（会場）

【つどえる場所】 高齢者と子どもが話し合う場／高齢者の知恵を子どもに伝える場／子どもが一人でも参加できる居場所（子ども食堂以外）／趣味交流の場／障害児の居場所／ペットと関われる場所（ペットから始まるコミュニケーション）／何でも窓口／動物園／既存のインフラの活用（公園、医療機関、保育園等）

【情報発信】 ラジオ局／新聞社（配達の際に公安の役目も兼ねる）／ケーブルテレビ／高齢者も使えるアプリ（学ばなくても使えるデジタル）とデジタル教育

【イベント】 お祭り／多世代が参加する仕掛け（子ども同伴で施設利用無料等）

Eグループ（会場）

【多世代交流ができる場】 子育て世帯向けのサービス（公園・遊具の充実）／史跡巡りイベント企画／料理のできる公園／桜の会（見よう）梨の会（食べよう）／シニア雇用の推進（カフェ、ファストフード）

【災害】 民間施設の避難場所化／災害への備えを学んだり話し合ったりする場／災害避難時のシェルター機能

【気軽な相談窓口】 公園や広場で気軽に相談できる窓口の設置／相談できる薬局／24時間開放している居場所（いつでも人がいる場）

【場所】 デイサービスの活動していない時間（曜日）の場所利用／コンビニ等の活用（24時間開いている場）／学校施設の解放、活用

【地域の助け合いの仕組み】 一包括地域に一つちょっと有償ボランティア（お助け隊）／公的サービスと個人の活動を合わせた仕組み（補助→チケット制）／小コミュニティ単位でご近所サポーターと支援ニーズをつなげる仕組み（ex 買い物サポート、移動支援など）

【移動支援】 ミニバス／すきまがうまるぐるりんバス

Fグループ（会場）

【つどいの場】 世代を超えた趣味の教室（囲碁、将棋）／高齢宅への子どもによる新聞配達／スポーツのできる場所・環境／交流飲み会（個人参加）／子どもが交流できる場所、遊び場／男のつまみ料理教室／地域のイベント・祭り・運動会・観戦ツアーetc.／自宅を利用した体験／同郷グループ作り（郷土料理作りなど）／高齢者向けサークルと参加支援するサポーター

【生活】 スーパーや食料品を扱うお店／病院や診療所

【環境・自然】 多摩川河川敷でのイベント／ニヶ領用水を活用し花・緑のイベント

【防災・防犯】 防災セミナー開催／防災ネットワーク、水害対策／交番派出所／警察の巡回連絡

【インフラ】 定額制の乗り合いタクシー／市街地を結ぶ循環バスの運行

【行政への期待】 高齢者にとって難しい力仕事の行政業者資格制度と助成金制度／何でも相談できる窓口の設置／自治会・町内会・子供会・女性町会の行事、イベント／ボランティア募集情報と高齢者をつなぐシステム

Gグループ（会場）

【つながれる場】 住民の集いの場／カフェスタイルのこども食堂／地域と個人をつなぐタッチポイント（デジタル・スマホ）／毎日出かけられる場づくり（散歩が楽しくなるまち）／子どもに朝食を提供してくれる食堂

【知りたいことを知れる場】 何でも相談できる場・何でも窓口（Web&リアル、まちのことを何でも教えてくれるコンシェルジュ）／常設のボランティアセンター

【イベント】 イベントでの健康情報提供（市民・区民まつり等）／高齢者向け自転車安全講座

【移動】 乗り合い（ルート巡回でも可）／コミュニティ車の運行（買い物や公共施設などを巡回）

【まちづくり】 まちの中心に行政機関と商業施設、周辺は歩行者専用／街中にベンチ設置→コミュニティ発生

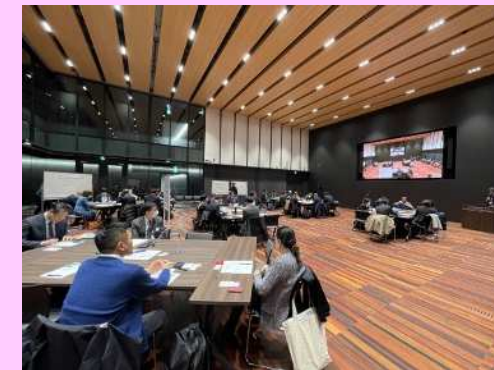
【みえる化】 支援要請者の事前登録サービス（災害時における要サポート者のみえる化）

Hグループ（会場）

【集いの場】 若い人が住みやすい・溶け込みやすい雰囲気づくり／趣味・健康体操等／安心・安全に遊べる公園／公園でのイベント／文化を生かしたイベント／買い物しやすい商店／主体的に活動する団体／安心して子育てができる、多世代が集まれる場所／だれでもいつでもカフェ／子育てに関するオンラインサポートシステム（子育て世帯の孤立防止、ママ友グループの紹介）／学校の活用

【セーフティネット】 医療機関／防災訓練／コミュニティバス等の交通手段／困りごとヘルプグループ（買い物や病院への付き添い）

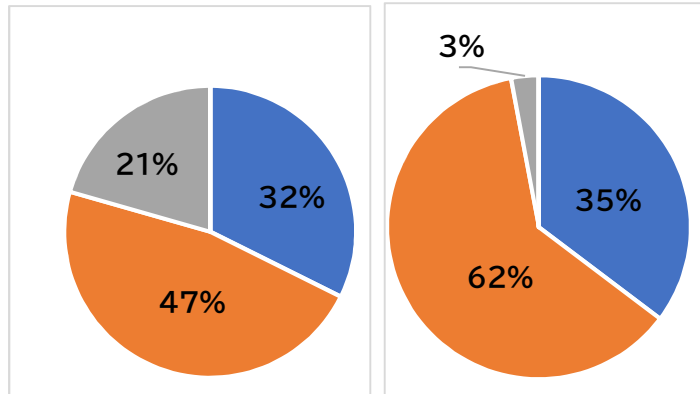
【ネットワーク】 情報の提供／テレホンサポートセンター（全ての問合せにすぐ答えてくれる）



【参加者のアンケート結果】

●今回の連絡協議会プログラムについて

(1)地ケア構築の取組報告 (2)市内の活動紹介



●連絡協議会のプログラムについて (抜粋)

(1)地ケア構築の取組報告

- ・次の段階に向けた整理がとてもよく理解できた。
- ・地ケア構築へのロードマップの進行状況、第3段階に向けたポイント等を共有できたことはよかった。その上で、地ケアの取組が地域市民にどの程度共有されているのか、課題等も分析してほしい。
- ・第3段階に向けたポイントの中の、予防的な視点というのは医療の観点からも重要であると思った。
- ・もう少し具体的に説明してほしい。

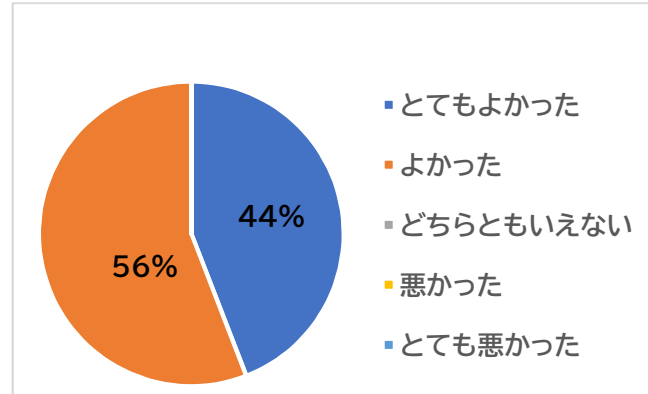
(2)市内の活動紹介

- ・関係機関としっかり連携しながら進めている様子が素晴らしかった。
- ・既存のインフラの活用をさらに柔軟にするアイデアを考えたいと思った。
- ・行政や見守りネットワーク協議会など諸団体との連携もまちづくりに大切な要素だと参考になった。
- ・今後の自社での取組の参考にしたい。

(3)グループディスカッション

- ・福祉関係ではない方とのディスカッションは面白い
- ・オンライン参加だったが、実参加とかわりない意見交換ができた。
- ・地域特性を踏まえた上で異業種の方々と課題解決に向けたアイデアを共有することは、自身の視野が広がり、今後も沿線の住民や企業と共生していくのに参考になった。
- ・異業種交流が出来て、多職種の方々の考え方等が分かり大変勉強になった。
- ・ディスカッションに入る前に、地域の予備知識としての提供資料の説明などがあるとさらに具体例が思いつきやすかった。
- ・ディスカッションの内容は良いが、時間が短く追われている感じがする。

(3)グループディスカッション



●今後の連絡協議会で取り上げてほしい内容 (抜粋)

(1)行政からの取組報告

- ・行政サービスとしての課題やまちづくりの方針
- ・地域福祉計画について。
- ・行政内の各課同士が、まちづくりにおいて、縦割りではなくどのようにタスクシェアしているのか。また、ダイバシティーを重んじているのか。
- ・川崎は特徴的な地域性が分かれているので、地域による課題や住民意識、取組状況のほか、横断的な連携例もあれば知りたい (教育、SDGs、経済、雇用状況など)。
- ・初任者向けの内容 (地域包括ケアシステムの始まり、進捗、効果とこれからのビジョンの紹介等)

(2)市内の活動紹介

- ・食農教育に対する紹介
- ・福祉におけるデジタル活用
- ・サイエンス、テクノロジーからの取組
- ・地区社協と企業のコラボ事例があれば伺いたい。
- ・子ども会等の地域活動
- ・地域のお祭りや活動情報
- ・食に関する活動等、イベント報告等

(3)グループディスカッション

- ・世代間交流など。
- ・高齢化社会の中で、孤立しないための生活の仕方
- ・具体的に連携してやってみたいことを団体がプレゼンして協力できそうな他団体が手上げるイベント
- ・多職種同士のマッチング方法
- ・企業と地域住民との関わり合い方

(4)その他

- ・人口減、人手不足の時代に、企業が雇用～まちづくりをどのように捉えているか知りたい。
- ・地ケア連協で団体連携された内容

●グループディスカッションで印象に残ったこと、他グループの報告を聞いて思ったことなど (抜粋)

- ・実際の施設等よりも集う場所等が多く挙げられ、やはり人と人とのつながりは重要であると感じた。
- ・世代間のコミュニケーションをどうするかが大事だと思った。
- ・公園、よみうりランドなどあるものの活用
- ・なんでも相談できる場所をつくること。
- ・こども食堂は夜が基本だとの事だが、朝食が取れないことも多く、そっちも大事だということ。
- ・交流の場は多世代交流につながり、そのつながりが災害時に役立つ。
- ・元行政の方、広報担当者等でなく、企業の取締役の出席を進めるべきではないかと思った。話しを無難に終える傾向にあり、グループディスカッションによるプレストから、イノベーションや発見が産まれる雰囲気がないように思う。
- ・フェーズが変わってきたこともあるが、内容がより具体的になったと思う。以前よりも業種の隔たりがなく一体感を感じる。

●その他御意見・御要望 (抜粋)

- ・女性の参加メンバーが少ない気がする。
- ・情報共有だけではなく、実現に向けた取組につなげてほしい。
- ・ディスカッションで実施した内容を実現に向けてやった方がよいと思う。意見だけ出てそのままとなっている気がする。
- ・多分野の行政関係機関・企業が顔の見える関係づくりをするという取組は効果が出ている。そろそろ地域で具体的にまちづくりに取り組んでいる市民の方々に公募で参加してもらったらどうか。
- ・いろいろな団体が進めていることを知る良い機会であると思う。
- ・18時までには会議全体を終了してほしい。
- ・協議会の趣旨がいまいち分からない。この協議会で出し合った意見は書面上だけのものなのか？実際に進めていくものなのか？参加者に啓発するためのものなのか？地域包括ケアシステムの理解を得るためのものなのか？あれだけの企業、各団体、行政が集まっているのに提案を具体化して実行していかなければ、非常に勿体ないと思う。

